

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：4・5歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園



テーマ

動植物と自然の関係性②

設定理由

気候が温かくなり、植物や生き物が地上に出てくるが多くなってきた。散歩に出かけると様々な自然物を見つけ、見たり触れたりする中で、植物や生き物に興味を持っていた。動かなくなった生き物を見て悲しい気持ちを持つ子どもや、きれいな形の葉と散った葉や枝を見比べたりする子どもがいた。これらのことから、身近な木や植物の気持ちや自分との関係性を深めることにした。

対象クラス

4・5歳児クラス 20名

活動のねらい

身近な木や植物との共感性を育む

問い

「木について教えてくれる？」

活動期間

令和7年6月～10月

活動回数

計4回

活動①

拾ってきた木を見る

準備物

子どもが拾ってきた木 | ラッションペン黒色(5) | マット | 制作シート(2)
紙(わら半紙、半紙、和紙、画用紙、模造紙：様々な形の物各10)

環境構成

場所：2歳児以上室

時間：6月6日、6月9日 9：30～10：30（1日各5名2グループ30分ずつ）

マットの上に透明の制作シートを敷き、拾ってきた木を並べ、子どもに木について問いかけながら活動を行う。アトリエ棚には、黒色のラッションペンや様々な素材、様々な形の白い画用紙を用意し、子どもが自由に選択できるようにする。アトリエ棚の反対側には、机を2台用意し、その上に制作シートを敷き、子どもから描くという案が出たら、描いて表現できるように環境を整える。

〈内容〉

- ①子どもたちが自由に木に触れ、「木について教えてくれる」という問いかけに答えながら、木の不思議さや面白さを発見する。
- ②様々な木の中からお気に入りの木を見つけ制作の机へ移動する。
- ③ペンと紙を用意し、木を観たり触れたりして感じたことを言葉や絵で表現する。
- ④描いた絵と木を用いて、友だちが選んだ木や描いた木についての話を聞く。



子どもの姿

木に触れる中で子どもたちは木と木を叩き木の音を聴き、叩く木の場所や木によって音の違いを感じたり、同じような木でも色や模様が違うことに気づいたりしていた。拾ってきた木と外に生えている木を思い出し「木は夜は寝てるのかな?」「自分たちも寝るから寝てると思う」「木には目がないから寝ないと思う」と話し、木と人間についても比べているようだった。そこから「木に気持ちってあるのかな?」という問いかけに「動いてるからあるよ」と話す子どもや「風がないと動かないからないと思う」と話し”気持ち”について考えていた。木の色の違いからは、折れている部分や木の皮が向けた部分の色の違いに気づき「木の中を見てみたい」と話していたり、“生きている木の色”と“生きていない木の色”に着目したりする子どもがいた。



振り返り

- 初めに木に触れて感じることで様々な木の違いに気づき、次に絵を描くことで木の細かい部分に気づき、木の中身が気になったり木には気持ちがあることに気づいたり、などと木の見方や視点を変えながら見ていた。
- ねらいが壮大であったので、子どもたちの姿からねらいや活動内容を改めて考える。
- 木には気持ちがあるか考える中で、生きている木の色や生きていない木の色など、色に着目する姿が見られたので、次回は木と色を使った活動を行う。

活動① 木の探究

散歩に出かけると様々な自然物を見つけ、見たり触れたりする中で植物や生き物に興味持ち、きれいな形の葉と散った葉や枝を見比べたりしていた。その中で気に入った木や枝を拾って観察することにした。



たくさんの木や枝を拾い集めた子どもたち。外で見る木と保育室で見る木とでは何かが違うと気づいているようだった。

木を叩いてみたけど、外で聞いた音とここで聞く音が違うよ

太い木で叩くと低い音だけど。細い木で叩くと高い音がする



これは木の丸いところ～

鍵みたいだね、中に何があるんだろう

色を塗ってみたいな



たくさんの種類の木と触れ合う中、木同士で叩いた時の音の違い、同じ木の中でも見つかる色の違い様々な違いに気づいていた。

初めは違いに焦点を当てていた子どもたちだったが、見たり触れたり表現していくと、木の中身はどうなっているのか、木は生きているのか、生きている色と生きている色と生きていない色をつけたい…と子どもたちの想いがあふれていった。

活動②

木の気持ちを考え、描いた木の紙に色を付ける

問 い

どんな色だったら喜ぶ？どんな気持ちかな？木は息してるのかな？
この木はどんな気持ち？生きているのかな？どうすると大きくなるのかな？

準備物

絵の具(茶色、白色、黒色、緑色、黄緑色) | パレット(単色用10、混ぜる用5) | 絵の具の筆・太(15)
水入れ(3) | 雑巾(3) | 活動①で描いた絵の紙 | 制作シート(1) | 拾ってきた木 | 拡大鏡 | 机(2) | 椅子(5) | 台(2)

環境構成

場所：大部屋またはエントランス

時間：7月11日、7月14日、7月15日 9:30～10:30 (1日2グループ各30分)

机を2台設置する。机の上に台を2つ置き、その上に木を並べる。座った時に子どもの手が届く位置に茶色、白色、黒色、緑色、黄緑色の絵の具を単色で用意する(2か所)。絵の具を選んで混ぜるようなパレットと筆を椅子の前の机の上に置く。

〈内容〉

- ①前回の活動を振り返る。サークルになり、木には気持ちがあるのか？など問いかけながら話をし、少人数グループで考える。
- ②絵の具を用意し、絵の具を混ぜながら木の色、気持ちの色、生きている色など子どもが感じた木の色を作る。
- ③作った絵の具の色を、前回描いた木の紙に塗る。
- ④木と色を通して感じたことを、言葉で表現し保育者や友だちと共有する。



子どもの姿

前回の活動や木に触れる中で感じたことを共有すると、前回の活動を思い出し「木を叩いて低い音を鳴らした」「木の絵を描いた」と話していた子どもたち。木に触れる中で切る時に「木は痛いのかな」と話す子どもがいたので、その話をすると「人も切れたら痛いから痛いと思う」と自分に置き換えていた。そこから「木には気持ちがあるのかな？」という問いかけに対し「あるよ」と言っている子どもがほとんどで「動いてるから生きていると思う」という話から、木は生きていますか生きていないのか、生きてる木の色、生きてない木の色など、自分と木についての思いが深まっていった。用意された4色の色から木の色、木の気持ちの色を作る子どもたち。木を色の気持ちについて、明るめの黄緑や白を混ぜた色を作る子どもたちは「嬉しい」「楽しい」などの気持ちを表現し、黒や焦げ茶色に近い暗めの色を作る子どもたちは「悲しい」「踏まれて痛い」「生きてない」などのマイナスな表現をし、表現する子どもたちの木の色には様々な思いが溢れていた。2色の「嬉しい木の色」を作った子どもは自分の嬉しい気持ちと木の嬉しい気持ちを比較し、同じ「嬉しい」という言葉だが違うと話していた。他にも「ほっとしている木の色」「隣にいる木が優しくしてくれるからいい気持ち。私も優しくされたらいい気持ち」「踏まれて悲しい。生きてない。嫌になる」「木のご飯は雨、根っこで手を繋いでる」など自分と木の共通点や類似点に気付いていた。

振り返り

- 前回描いた木の紙に絵の具を塗る予定であったが、木に直接塗りたい子どももいた。
- 絵の具を使い慣れていなかったため、木より先に絵の具に目が行っていたので、実物の木を見て感じる時間を多く取るとよかった。また、アトリエ棚に絵の具を設置していく。
- 大人が子どもの思いを聞き出そうと話過ぎてしまっていたため、遊び込んだり子どもからの言葉が拾えるようにしていく。
- 4歳児、5歳児それぞれの学年ならではの発想や考え方をし、自分と木を比較したり、自分と同じ気持ちになっていたりしていた。
- 拾ってきた木をみたり、戸外に生えている木を想像したりしながら活動に取り組む子どもが多くいたので、次回は戸外の木や生えている木なども取り入れながら行っていく。

活動② 自分と木



木に触れる中で、“木は切られたら痛いのかな”
“生きている木の色” “生きていない木の色”など
木の気持ちや思いについて考えていた子どもたち。

静かな場所で深慮しながら、
木を見て、木の色をつくり表現していた。

きをきったら
こころがなくなっちゃう
きはつよいところを
もっているよ
ほそいきは
ちょっとだけよわいところ



いっしょにあそんでるきは
うれしいいろ
こげちゃいろのきは
“ほっとするきもち”のき
ちゃいろとくろのき
2つとも“うれしいきもち”だけど
ぼくとはちがう“うれしいきもち”



木に触れ、木の気持ちになって考えを深める子どもたち。自分の気持ちと比較して考えながら木の気持ちを色で表現していた。明るい色をつくる子どもたちからは“明るい気持ち”、暗い色をつくる子どもたちからは“暗い気持ち”が多くあがっていた。木の気持ちの色をつくり表現していくことで、並んでいる木を描き、色をつけている子どもは“優しくされているから嬉しい”“私も優しくされたら嬉しい”と自分に置き換えたり、木は根っこで繋がっていることや、繋がっている嬉しさという点から、木と自分を比較し、共通点や類似点に気付き、木と人間は異なる存在でありながらも、成長、適応、共存といった点で、共通の要素もっていることに気付いていた。

活動③

公園の木と園にあるパキラの木に触れる中で、自由に表現する

問 い

どうなったのかな？この木覚えてる？どこにあるのかな？なんていってるのかな？この木は何してる？

準備物

プロジェクター(1) | スクリーン(!) | 黒い隠し布(1) | 映像投影用PC(1) | ロールの模造紙(1) | ロール模造紙(1) | 制作シート(1) | はさみ(1) | ペン(5) | 観葉植物(1) | スタンドライト(1) | 養生テープ

環境構成

場所：エントランス

時間：8月8日、8月14日、8月15日 9:30~10:30 (1日2グループ各30分)

プロジェクターとスクリーンを設置し、子どもたちの親しみのある竹早公園の木の映像を投影する。制作シートを敷き、その上にロールの模造紙を用意しペンを設置する。スクリーンの斜め前に観葉植物を設置する。

〈内容〉

- ①サークルになり、前回の活動を振り返る。前回の活動を通して感じたことから話をし、少人数グループで話をする。
- ②プロジェクターで子どもたちの親しみのある公園を投影、観葉植物、木に触れ親しむ。
- ③活動をする中で、問いから木の気持ちになり、木になりきって身体や動きで表現してみる。
- ④身体で表現して感じたこと、思ったことを1枚の模造紙に少人数グループの友だちと表現する。(子どもたちと相談しながら模造紙の大きさを決める。)
- ⑤友だちと振り返りをする。



子どもの姿

探究場所の環境に興味を示し始まる前から「木だ」「何をやるんだろう？」と期待感を持っていた。前回の活動を振り返ると子どもたちからは「木の気持ちになって考えた」「明るい色の木は嬉しい気持ちを持ってるよ」と話し友だちと共有していた。スクリーンに投影された公園の木を見て「公園にいるみたい」、映像に合わせて体を上下に動かし「土の中!」「木の中にいるみたい」と全身を使って映像を見ていた。この木は何をしているか考える子どもたちからは「木はみんなの事を見ているんだよ」「おしゃべりしてる」「人間には聞こえない」「木だけに話してる」「葉っぱが集まって話してる」と木について考えていた。一人の子どもが両手を挙げるとそれを見た周りの子どもたちが問いかけると「木になってるの」と話し、みんなで木になっていた。「だらーんってなってる木」「足が根っこ、手が伸びている枝」「葉っぱが髪の毛」「(木になってみて) 疲れた。木は疲れないのかな?」と話し、友だちと木の土、根っこ、木、葉っぱとそれぞれになりきり一つの木を表現していた。模造紙とペンを見ると「木を描いてみよう」という子どもの一言から木を描くことが始まり、描く中で「木には色がある」「木の中に入ってみたいな」「木って種から出来てるのかな」とまた新しい発見や疑問が浮かんでいた。描いた木の上を歩いたり、横に寝っ転がったりして、描いた木の大きさを感じている子もいた。最後に描いた木について「みんなで描いたのは大きな木が描けると思ったから」「みんなで木を描いたら木も嬉しい気持ちになるから」と話し、一人で見て感じて描くことから、友だちと見て感じて共有することへと変わっていった。

振り返り

- グループごとに探究の深まり方や興味が様々だったため、その時々の子どもによって対応を変えたり、臨機応変に活動を止めたりすることも大切だった。
- ロールの模造紙を最後まで切らずに置いたことで、子どもたちが描きながら長さを調節していてよかった。
- 他児の言動に反応し、自身の本領を発揮できていない子もいたので、再度グループの組み方を担任間で検討していく。
- 映像を事前に見慣れていたので、過度な反応はせず、世界観や雰囲気に入り込んでいた。

活動③ 木を感じる



竹早公園だ

恐竜の骨みたい

木の中にいるみたい



木ってこうなったよ

木には葉っぱもあった

根っこもかきたいな

前回までの活動を振り返り、木について考えたことを思い出していた子どもたち。

朝、昼、夜と変わりゆく公園の映像を見ながら、子ども達自身が木の気持ちになり身体で表現していた。



前の木の探究覚えてる？

木の気持ちとか？



木の大きさって

このくらいかな？

映像は、いつも見ている「竹早公園」。

カメラの動きと一緒に公園の木を見上げ、木々が揺れるのを見て、身体を自然に動かす子どもたちだった。映像から子どもたち自身が木になり始め、両手を広げ木になり、木の気持ちになっていた。その気持ちから木を描くことが始まった。子どもたちの中で幹を描く、葉を描く枝を描くと役割を分担し一枚の紙に今感じた木の事を友だちと言葉を交わしながら表現していた。

活動④

木の気持ちになって色を付けて表現する

問 い

どうなったのかな？この木覚えてる？どこにあるのかな？なんていってるのかな？この木は何してる？

準備物

プロジェクター(1) | スクリーン(1) | 黒い隠し布(1) | 映像投影用PC(1) | ロール模造紙(1) | 制作シート(2) | はさみ(1) | ペン(5) | 観葉植物(1) | スタンドライト(1) | クリップスタンド(1) | 養生テープ | 机(1) | 絵具 (茶色、緑、黄緑、白、灰色) | 水入れ(5) | タオル(5) | 筆(太5、中5) | パレット(5) | スモック(5)

環境構成

場所：エントランス

時間：8月19日、8月20日 9:30～10:30 (1日2グループ各30分)

プロジェクターとスクリーンを設置し、子どもたちの親しみのある竹早公園の木の映像を投影する。制作シートを敷き、その上にロールの模造紙を用意しペンを設置する。スクリーンの斜め前に観葉植物を設置する。アトリエ棚には、絵具、水入れ、タオル、筆、パレットを用意し、水入れには水を入れておく。子どもはスモックを着用する。

〈内容〉

- ①サークルになり、前回の活動を振り返る。前回の活動を通して感じたことから話をし、少人数グループで話をする。
- ②プロジェクターで子どもたちの親しみのある公園を投影、観葉植物、木に触れ親しむ。
- ③活動をする中で、問いから木の気持ちになり、木になりきって身体や動きで表現してみる。
- ④身体で表現して感じたこと、思ったことを1枚の模造紙に少人数グループの友だちと表現する。(子どもたちと相談しながら模造紙の大きさを決める。)
- ⑤友だちと振り返りをする。



子どもの姿

公園の木の映像を見ながら木について考えると木の映像を見る子どもたちは映像に合わせて身体を動かし「木のエレベーターです。上へまいります」「夜の木の世界。おやすみなさい」「木に登ってるみたい」と話していた。自分の身体に映る木の映像から、自分が木になりきっている子もいた。絵の具が準備された環境から前回の木の絵に色をつけてみようという流れになると、「緑色、黄緑色、茶色、白色、灰色」の5色を使って木の色を作っていた。色を作って塗る中で「木ってなんで茶色なんだろう?」「砂から生えてきたから木は茶色」「なんで葉っぱは緑色なんだろう」「葉っぱは季節に色が変わるよ」「種によって気持ちが変わるから色も変わると思う」と話し、色を付けることにより、新たな木の気持ちや思いを考えたり気づいたりしているように感じた。

振り返り

- 子どもたちが集中して遊び込んでいたため、計画していた各グループ30分では短かった。その時々の子どもの姿から臨機応変に時間を対応していく。
- 映像を投影し、身体を使って表現するスペースがあることで伸び伸びと表現していた。
- 絵の具で色を混ぜてつくる子どもが多く、思い思いの色をつくって表現していた。

活動④ “木” 色を使って表現する

前回の活動を振り返りながら、映像を使って体で木になりきりながら表現する子どもたち。

前回の活動で模造紙に描いた木の絵の横に寝っ転がり、自分よりも大きく描いた木の大きさを体で感じていた。

げんきなみどりのきにしよう

げんきなみどりって？

ぼくはきみどりがげんきなきだとおもう

ぐれーだとかなしそうなきになるね



てがはっぱで
からだがき

あしが
ねっこだよ



こーんなに
おおきなきをかいたんだ

わたしよりも
おおきだよ



きって、なんで“ちゃいろ”なんだろう？

すなからはえてきたから、きは“ちゃいろ”

なんで、はっぱは“みどりいろ”？
はっぱはきせつによっていろがちがう
たねによってきもちがかわるから？

“茶色、緑、黄緑、グレー、白”の5色を使って、木を表現する中で、子どもたちの中では様々な疑問や気づきが生まれていた。一人ひとりが木に対しての様々な思いを持ちながら、一つの紙の中の一つの木に気持ちを表現した。友だちの言葉や疑問に耳を傾けて一緒に考える子、友だちの考えを聞いてまた新しい考えが浮かび上がる子など、子どもたちの発想や考えは無限に広がっていた。木の映像を使って表現する時は存分に体を動かし、描く時には夢中になって表現していた。色を付けることにより、新たな木の気持ちや思いを考えたり気づいたりしているように感じた。

活動⑤

公園の映像や描いた木から物語をつくる

問 い

木は何してる？木はどんな様子？木でお話つくってみる？誰がどんな役？

準備物

プロジェクター(2) | スクリーン | 映像投影用PC(2) | 前回描いた絵 | カメラ(2) | 名札 | 白い布(5)
机(2) | 観葉植物(1)

環境構成

〈環境設定〉

場所：大部屋

時間：9月22日（1～2グループ）

9:15 講師・荒木楓さんと内容共有

9:30～10:00(10:30)くらい 木の探究

※10時までに1グループが終わらなかった場合は
当日は1グループのみ

11:00～11:45 フィードバック

〈内容〉

①前回の活動の振り返りをする。

その時にどういう気持ちで描いたか問う。

②映像と前回描いた絵から物語をつくる。

③物語をつくる姿や物語を動画で撮る。

（撮った動画はPCに移す（サブの先生））

④グループでの振り返りをする。

⑤撮った動画をプロジェクターで投影して、みんなで見る。



子どもの姿

左右に映し出された、公園の木の映像を見ながら、どんなことが始まるのか気持ちを高めていた子どもたち。前回の活動を振り返る中で、「木には気持ちがあるんだよ」「私たちと同じ気持ちを持ってるんだよ」とその時感じた気持ちを言葉で共有していた。初めに、空間の中を自由に動き始めた子どもたちは、映像の木や前回描いた木を眺めていた。映像から「よくみると木ってデコボコしてるよ」「穴が開いてるみたい」「ここで息してる？」と話し、近くにある観葉植物も見に行っていた。「木は何してるの？」など疑問に思ったことを観葉植物に聞く子どももいた。聞いた子どもは「みんなと遊びたいって言っている」と木の気持ちを代弁し、周りの友だちにも知らせていた。すると「いいよ」「何して遊ぶ？」と木を交えての遊びが始まった。「木は隠れられるからかくれんぼをしよう」と、公園で木と遊んでいたときの様子を思い出し、木と一緒に遊ぼうとしていた。木は植物で人間とは別の存在だが、木と触れ合い遊ぶ子どもたちの姿は”友だち”そのものだった。次に始まった遊びは、それぞれが役になり切った遊びだった。木、アゲハ蝶、風、雲、花などの自然物になりきり遊び始めた。蝶々や花が飛んできて木に止まり、風が吹くと木が折れる、雲から雨が降ると蝶々や花は木の下に隠れる、雨から水をもらった木は生長するなどのストーリーを作っていた。今までの活動や経験から”木”という一つの自然物から様々な志向が生まれ、木と人の共感的部分を感じながら深めていき、木と人は共同して生きているということを感じていた。

振り返り

- 囲われた空間だった為、その空間や少人数の中で、思い思いに表現していた。
- 少人数だったこともあり、大人が一人ひとりの子どもの言葉を受けとめながら対話することができ、少人数で行う良さが出ていた。
- これまで絵を描いてきたこともあり、描きたいという気持ちを持つ子どももいたので、紙とペンを用意しても良かった。
- 木から他の自然物にも目を向けていた為、図鑑などを使って調べていく。

※今回の活動から物語作りが続いているため、12月に予定しているお楽しみ会につなげていきたいと思う。

活動⑤ ～物語をつくる～



木って どんな気持ちかな

ちょっと公園でお散歩してみようよ

これまで木の気持ちを考えたり、実際に木に触れてみたり、木を描いたりしてきた。今回は自分たちで描いた木の絵と竹早公園の映像を使って物語を作っていく。



どんな役があるかな？

まずは木の役でしょ？それから…

砂・風・アゲハチョウの役も必要だね！

木の気持ちも聞いてみよう。物語の題名は「お友だちになってね」にしよう！

こうやってかくれんぼするから、一緒に遊べて木も嬉しいのかな？



木に気持ちを聞き木の気持ちと自分の気持ちを照らし合わせて共感的な部分を探していた。木の好きな物は？木のご飯は何？何をされたら喜ぶの？たくさんの疑問を持ちその度に木に聞いていた子どもたち。子どもたちが作り上げる物語「お友だちになってね」は役について熟考しながらこれからも続いていく。

全体の振り返り

- 幼児ならではの活動で展開し、つながっていく探究だった。
- 子どもの興味の視点から、自然と共存しその気持ちになっていく子どもの姿が面白いと思った。
- 見て感じることから絵に描いて表現し、また自分たちの物語をつくる過程を通して、より自然への興味関心が深まっているような子どもの姿があった。
- 保育者の準備なども大変だったと思うが、振り返りが次の活動に活かされて良い活動に繋がっているように感じた。
- 保育者自身も一緒に入り込み、子どもの気持ちに寄り添い共感しながら関わることで、子どもの探究がより深まっていた。



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ茗荷谷駅前園

〒112-0002
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階
TEL:03-5615-8798
FAX:03-5615-8799